

Bulk Forming

(社)日本塑性加工学会 鍛造分科会ニュース No24, 1996年7月

総会・第61回研究集会 「高精度熱間鍛造への挑戦」 開催される

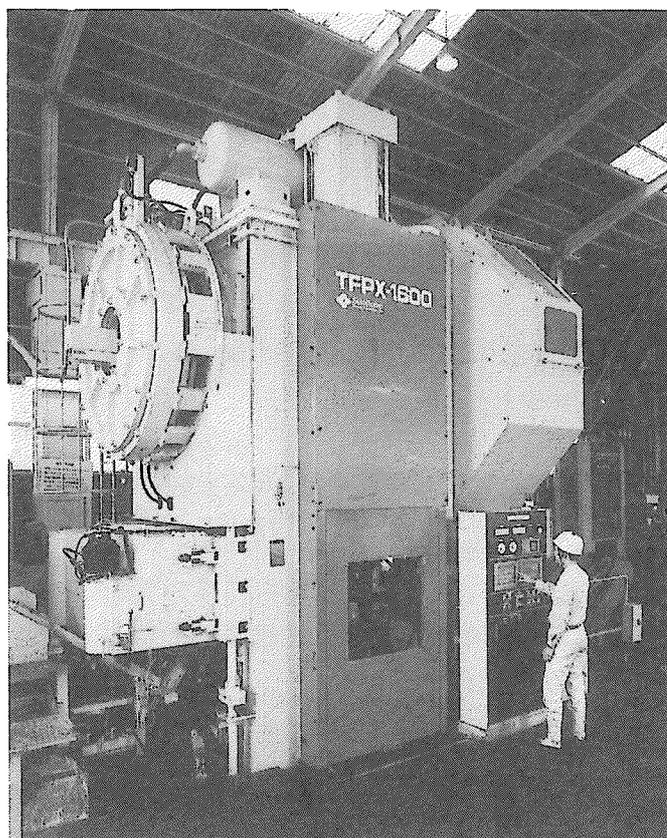
去る6月14日(金)に標記会合は住友重機械工業(株)新居浜製造所において開催され、約45名の参加者がありました。

総会は近藤主査の挨拶で始まり、旧年度の報告ならびに新年度の計画とも議案書の通り承認されました。新年度の事業としては研究集会2回(6月新居浜, 11月京都), 実務講座(2月ころ名古屋), 中日精密鍛造シンポジウム(4月中国西安)を開催し、また新しく設けられた塑性加工学会, 精密鍛造国際学術賞の審査並びに付帯行事に係る業務の一部を分担すること, 塑性加工学会誌連載講義「わかりやすい鍛造」を企画することなどが認められました。

研究集会においては次の4件の講演がありました。

- (1)高温精密鍛造と熱負荷/ 濟木弘行 (熊本大学)
- (2)最近の鍛造用鋼材/ 西田和彦 (住友金属小倉製鉄所)
- (3)オイラー型要素を用いた三次元鍛造シミュレーション/ シェリフ・ラシッド (日本MSC), 森 洋志 (日立造船情報システム)
- (4)小物・薄物鍛造プレスシステムの開発/ 尾崎 豊 (住友重機)

講演の後, 住友重機械工業(株)新居浜製造所の工場見学をしました。新しく開発された高速成形自動鍛造プレス(1600t, 110spm, 写真)をはじめ, プラスチック成形機, 連続铸造機(製作中)などを見学しました。



班の研究会は総会、研究集会の前日の6月13日(木)に同じく住友重機械工業(株)新居浜製造所の会議室において開催され、次のような話題提供がありました。

鍛造のエコロジー研究グループ (第1室, 13:30~15:30)

- (1)塑性加工と環境問題/関口秀夫 (奈良工専)
- (2)自動車産業における環境問題への取り組み/庄司秀夫 (トヨタ自動車)
- (3)鍛造における環境負荷とその改善策/久保勝司 (摂南大)
- (4)今後の班活動について

精密鍛造理論研究班 (第2室, 13:30~15:30)

- (1)金型から見た冷間鍛造の高精度化/角南不二夫 (ヤマナカコーキン)
- (2)テーパ付きコンテナを駆動する前後方押し出し法/王 欣 (阪大院)
- (3)つば付きカップの閉塞鍛造事例/岩瀬昭雄 (住友重機)
- (4)インドにおける自動車産業事情, グプタ氏の講演などより/篠崎吉太郎 (機械技研)

高温精密鍛造研究班 (第1室, 15:40~17:40)

- (1)塑性加工油添加剤の分子設計/日比 徹 (大同化学)
- (2)温・熱間鍛造における潤滑剤のスパイクテストによる評価/迫田克義 (大同特殊鋼)
- (3)潤滑条件と型寿命, 摩擦条件について討論

鍛造材料・鍛造CAE研究班 (第2室, 15:40~17:40)

- (1)鋼材のCAE用変形抵抗について/戸田正弘 (新日鉄, 鉄鋼研究所)
- (2)鍛造加工時の熱解析における材料特性/中西広吉 (豊田中研)
- (3)熱連成解析用 応力~ひずみ曲線の求め方/小野宗憲 (大同工大)

なお、班の研究会は個々の班で企画し、班に登録している委員に案内状を送って開催しています。班への登録は随時可能ですので班主査または事務局までその旨連絡して下さい。鍛造のエコロジー研究グループ(代表関口秀夫委員, 奈良工専 tel, fax 07435-5-6072)は、新しく発足したばかりでたがいま登録受付中です。

第5回中日精密鍛造学術会議 成功裡に終わる

会議は日中で精密鍛造に関する情報を交換し、研究者・技術者の友情を深める場として、4月25日~29日に中国、西安において開催された。中国側組織・委員長 李社釗先生(北京机电研究所副所長)は最終日に次のように挨拶された。「今回の講演会においては鍛造技術・事例5件, 工具・金型2件, 機械2件, 潤滑1件, 新材料・新加工法8件, 理論・シミュレーション5件, 環境問題1件の論文が発表され, バランスが良く内容は最高水準であった。中でも小坂田教授による鍛造CAEの講演には感銘を受けた。参加者は日本側

21名、同伴者7名、中国側42名で、日中とも大学と企業とからはほぼ同数の参加者であった。次回はできるだけ早期に日本で開催するよう希望する……。日本側から分科会主査の近藤一義先生（名古屋大学教授、日本塑性加工学会会長）は「次回は1998年に日本の名古屋地区で開催できるようにしたい」のように挨拶をされた。

当初予定の工場見学はできなかったが、古都長安の兵馬俑をはじめ遺跡がすばらしく、また馬場惇委員は別途塑性と加工に報文を執筆中のようです。

塑性加工技術シリーズ 4

鍛 造

——目指すはネットシェイプ——

標記図書は鍛造分科会が執筆を引き受けて、平成7年8月に発行されました。平成7年の9月に工藤先生より頂いたメッセージにより本書の特徴は次の通りです。

「本書は内容を熱・温・冷間精密鍛造に限定してはいるが、個々の鍛造方法の説明というより、鍛造技術全体をシステムとして構成し、品質とコストの面でその最適化を計るという観点から書かれている。この新しいスタイルが読者に理解され生産現場と基礎研究室において役立てられるように、著者や関係グループ自身による豊富な実施例を基礎的な考え方と結びつける試みが至る所でなされている点も特徴である。」

なお本書は塑性加工学会事務局（tel 03-3402-0849, fax 03-3402-0965）より直接購入しますと会員特価となり安くなります。

日本塑性加工学会 精密鍛造国際学術賞

(株)ニチダイ殿より寄付される基金により精密鍛造技術の発展に貢献のあった独創的、国際的学術業績を有する個人を、3年毎に開催される国際生産加工会議（ICTP）の席上で顕彰し、併せて審査員を講師とする「JSTP国際精密鍛造セミナー」を開催するという新しい賞です。

審査員長（日本）とアジア、南北アメリカ及びオセアニア、ヨーロッパ及びアフリカの三地域から一名づつ選ばれた審査員とは、受賞者を1～2名選考して、金メダル、表彰楯、賞金を授与し表彰する。受賞者はICTPの会議の席で記念講演をする。また審査員を講師とする講義のために2日、(株)ニチダイなどの工場見学のために1日の合計3日間のセミナーを開催する。セミナーには35才以下の国内外の若手研究者を優先して、旅費、宿泊費を支給して招待する。自費参加者もできるだけ受け入れる。鍛造分科会は審査員の選任、セミナーの開催、セミナー参加者の選考など業務の一部を分担する。3年毎の基金1500万円は(株)ニチダイ殿より寄付される予定。事務局は日本塑性加工学会（事務局長内山氏）。

日本塑性加工学会賞受賞候補者の推薦について

日本塑性加工学会は、会田技術賞、会田技術奨励賞、技術開発賞、三井精密技術賞、新進賞、学生奨励賞などの受賞候補者を募集しています。鍛造分科会は候補者の推薦をいたしますので、自選、他薦を問わず関心のある方は主査までご相談下さい。募集要領は塑性と加工誌の8月号の会告をご参照下さい。

第62回研究集会・班の研究会の予定

第62回研究集会：平成8年11月29日(金)，9:30～17:30

- ・講演会「日本の鍛造業の過去・現在・未来」(仮題)

鍛造業界を代表する人たちによる基調講演またはパネルディスカッションを企画中

会場：(株)阪村機械製作所 (近鉄京都線大久保駅下車)

- ・工場見学

(株)阪村機械製作所

(株)ニチダイ

班の研究会：平成8年11月28日(木)，午後

会場：ホテルセントノーム京都

京都市南区竹田街道八条入ル

tel 075-682-8777

(新幹線京都駅八条口から徒歩1分)

原稿投稿のお願い

分科会ニュースの発行がとどこおり大変にごめいわくをおかけし、申し訳ありませんでした。本紙には会議の案内や報告などのほかに、会員諸兄が所属している企業や機関の新製品や技術の紹介、あるいは各位の経験談など多彩な記事が載せられればと思っています。原稿用紙2～3枚と写真一葉程度の長さを目やすとする記事のご投稿をお待ちします。原稿は分科会幹事(〒305 つくば市並木1-2 機械技術研究所 生産システム部 篠崎吉太郎, tel 0298-58-7190 fax 0298-58-7167)までお送り下さい。ただし記事の採否は分科会主査にご一任願います。

鍛造分科会ニュース No24

発行者 (社)日本塑性加工学会鍛造分科会